

## 17. 入学センター

### (1) 理念・目的

入学センターは、受験生や高等学校進路指導の教員に対し本学の特徴を知ってもらい十分理解させるため、本学各学部に関するきめの細かい情報提供などのサービスを行い、もって、多くの質の高い学生が入学する機会を確立していくことを目指す。

### (2) 組織

#### 〔現状の説明〕

入学センターは、組織上学長直轄として位置付けられ、事務部門からも独立したセンター組織となっている。

ただし、本学の他のセンター部門におけるセンター長は、教員が兼務しているのに対し、入学センター長は、事務領域の多い性格上事務職員が就いている。

現在、センター長は、事務部門の事務長が兼務発令されており、他に専任スタッフとして、課長、係長、主任及び係員各1人の計4人が配属されている。

#### 〔点検・評価〕

本学における入学センターは、平成12年（2000年）7月に発足した。入学センター発足以前の入試広報関連業務は、学園本部がある三鷹キャンパスで学園広報室が学内全般広報と合わせて大学入学広報も含めた活動を行ってきた。

これまでの活動は、入試広報を最も必要とする八王子所在学部と立地的にも連携が取りにくい環境にあったこともあり、必ずしも積極的に展開されたとはいえなかった。八王子キャンパスに設置された入試広報関連業務を専門に取り扱う入学センターの設置は、この不足を補い、入試関連事務の効率性を高めることが期待される。特に、受験生からのさまざまな問い合わせを入学センターが全て対応する態勢は、これまで、対応してきた各学部教務課の負担軽減につながり評価される。

#### 〔長所と問題点〕

入試広報関連業務を入学センターに集約できることは、新たな組織設置の最大効果と言える。各学部単位でそれぞれ取り扱われてきたものが徐々に一箇所で処理されるようになるにつれ、書式・期日等の統一が図られるようになり、効率を生むことになる。

しかしながら、職員の配置人員数に関しては、現状の配置が必ずしも適正人員とは言えない。職位配置は課長から係員まで各一人と合理的配置になっているものの、全体人員としては、更に2名程度の係員配置が望まれる。

その理由は、企画立案と受験相談、学校訪問など多くの学外活動を併せ行わなければならないこと、実務的業務が量的に過多状態にあることである。

#### 〔将来の改善・改革に向けた方策〕

これまでの本学の入学試験関連業務としては、受験生等へのPR関係を広報室で担当し、

募集、出願処理、試験実施、入学手続き等の一連業務を各学部事務部門で担当してきた。

入学センターは、開設依頼受験生へのPR部分である入試広報業務を中心に広報室から引き継ぎその拡充を図っている。今後は、出願処理業務までを入学センターで行うことが効率的であるとの考えからその移行をも準備中である。移行に際し、現状の出願処理方法がOnLine端末によるパンチ入力方式を採用しているため、入学センター内にこのOnLine用パソコン設置の投資発生が伴うことになるが、この機会に出願処理に係る入力方式そのものをマークシート方式に変更することが効率化にとって必要と思われる。

### (3) 活動内容

#### 〔現状の説明〕

新しく発足した組織として業務の定着が図られていない面もあるが、従来からの広報室で担当してきた受験生募集広報を中心に、特に印刷物広報の編集・発行、ホームページ充実、受験雑誌広告手配、受験生への問い合わせ対応、訪問受験生への対応、受験相談会への参加、高等学校訪問、オープンキャンパス企画、全学入学試験委員会開催等の活動を展開中である。

#### 〔点検・評価〕

受験人口の減少に直面している中で本学が受験生募集担当専門部門の拡充に踏み切った背景には、従来以上に学生の募集活動を飛躍させなければならない事情がある。全般的には活動内容の充実が評価されるものの個々の活動には、手探り状態の感もあり業務効果を飛躍的に発揮するにまではいたっていない。

#### 〔長所と問題点〕

入学センター開設の経緯は、前述のとおり学園広報室が学内全般広報業務と連動して学生募集広報を担当してきた中でさまざまな障害への対策であった。入試広報を最も必要とする八王子キャンパス所在学部と位置的に連携しにくい環境にあったこと、各学部間で統一性のない学生募集体系であったことなどがそれである。入学センターの立地条件から各学部の入試委員会、広報委員会等との連携が大きく改善とした。制度的な折衝のみならず、各関連委員の教員が入学センターを気軽に訪問し、情報交換を行える環境が整ったことも効果的と思える。また、昨今高等学校から大学に対し大学の模擬講義・職業説明等の要請が多く寄せられるようになっているが、これらにもタイムリーに応じられる態勢がとれることもメリットのひとつといえる。

学生募集全般にわたっての各学部統一化に関しては、必ずしも進展していない。それでも、受験生からの問い合わせ窓口は、完全に入学センター一本になり募集要項の発送処理なども一元管理が可能となったので、受験生サービスの点からは大きな進展といえる。今後できるものから徐々に統一を図り、効率化を図るとともに大学全体を社会にアピールしていく必要がある。

統一化が進展しないひとつの要因として、大学の立地上の問題がある。入学試験の実施に際し八王子キャンパスの場合、受験生の輸送手段がバス以外にない中で交通渋滞を避け安定送迎を図ろうとすれば、休日実施しか方法がない。そうした場合、学部ごとに1週間お

きの実施となってしまふ。三鷹キャンパス活用に際しても、平日は付属病院の診療、過密カリキュラムで組まれている医学部授業があり、休講にすることなく数少ない医学部教室を借用しての実施には困難が伴い、結局他大学が一定期間内に学部または学科ごとに連日入学試験を実施しているような入試運営は難しいことになる。

#### 〔将来の改善・改革に向けた方策〕

学生募集全般にわたっての各学部統一化に関しては、引き続き学長を委員長とした大学全体の入学試験委員会の充実を推進し、場合によっては見識と権限によって統制を図ることも必要となる。学部の特性による不統一化には当然やむを得ないものもあるが、事務処理関連を中心とした統一化は引き続き入学センターを中心に推進して行くことが望まれる。検討が具体化しているひとつとして各学部の出願処理を入学センターに集中させる方策がある。これは、現状の出願処理取り扱い部門である教務課が出願処理の時期に併せて在学生の成績処理、進級・卒業準備等の業務と平行処理を行わなければならない状況にあり、従来からこの分割に対する要望が大きい。

### (4) 施設・設備等

#### 〔現状の説明〕

入学センター事務室は、関係部門の協力により八王子キャンパスほぼ中心部のI棟2階に設置されている。31.0㎡1室と39.96㎡1室（内8.40㎡の個室に分割）の2室を保有し、両室が内部で往来可能な構造となっている。

主な設備としては、開設とともに職員1人に1端末のパソコンが設置されている。

#### 〔点検・評価〕

訪問受験生にはややわかりにくい位置にあるものの施設・設備面にあっては、比較的恵まれた環境にあるといえる。とりわけ入試広報がネット関連機器活用に移行しつつある現状から、職員1人1端末を有する状況は、学内他の何れの部署にも例がなく学内的にも極めて効率的な職場であり、受験生との情報交換にも大きな効果を生んでいる。

#### 〔長所と問題点〕

入学センター事務室が八王子キャンパスのほぼ中心部に確保できたことは、八王子キャンパス全学部の学生募集業務を担当することの各学部教員へのアピール上からも効果的である。難点は従前の教室を改造しての環境から、倉庫などの整備が不十分なこと、事務室が2階奥まった場所に位置している関係上ややわかりにくいこと等である。

#### 〔将来の改善・改革に向けた方策〕

入学センターは、受験生への情報提供用パンフレット、募集要項等の印刷物が大量に保管されている。事務室内にこれらが置かれていることは事務作業能率面にも支障を来すばかりでなく、訪問受験生への美観上の点からも好ましくない。将来的にも印刷物の全廃は不可能と思われる状況から、可能な限り事務室近くに倉庫を確保し事務室の有効活用を図らなければならない。有効活用の一つとして受験生が訪問した際、気軽に会話ができる雰

団気を作るためのカウンター形式による相談コーナー設置が望まれる。

## (5) 管理・運営

### 〔現状の説明〕

開設1年目の入学センターは、業務分掌も流動的であり、場当たりの業務処理も余儀なくされている状況である。入学試験委員会と入学センターの連携も機能性に欠けており、やや形式的な委員会運営の感がある。事務的な管理面にあつては、課長の統括の下に課長を含めた4名が慌しく活動している。

### 〔点検・評価〕

各学部には入試実施準備委員と広報委員がいるが入学試験委員会の構成は、各学部とも入試実施準備委員からの選出となっているため入学センターで目指す募集広報との方向性にズレが感じられることがある。幸い、各学部とも両委員会の連携が保たれているので大きな支障とはなっていない。

また、課長以下4名の管理体制は必ずしも適正配置数でないことは既に触れたことでもあるが、将来的に出願業務を入学センターが中心となり取り扱うことになると、この時期の受験生からの問い合わせ、相談会、その他の業務等に停滞がおよぶことが懸念される。

### 〔長所と問題点〕

入学センター開設により入学センターと各学部との入学試験関連情報交換が活発に行われるようになってきた。入学センターからの情報発信も積極的に推進されており、各学部関係教員の大学受験事情に対する認識も高まってきている。これらの情報は入学募集に関する専門部署が存在することによって、受験業界、他大学担当者、高校教員、受験生との接触等を通して効率的に得られることになった。

一方では、従前から入学試験全般の業務を取り扱ってきた教務課を中心に、在学生の定期試験、進級・卒業関係成績処理の繁忙期に一致して入学試験関連業務処理を行わなければならないこれまでの状況を緩和して欲しいとの要望が強く出されていたところでもあり、入学センターの設置がこの問題の解決策として期待されている。

しかしながら、上述の情報収集、活用あるいは、募集広報業務等の戦略的企画業務を目的とする方策からは、人員配置構成的にも入学試験関連の業務処理までは困難と言わざるを得ない。

### 〔将来の改善・改革に向けた方策〕

平成12年度における志願者数の前年比20%減少を受け、平成13年度から高等学校との連携を深める目的で各学部教員の高等学校訪問を実施する予定である。原則として各学部から20校前後の重点高校を選出し、併せて訪問教員も各学部より適任者を選定したうえで、同一教員が同一高校を年に数回訪問する予定である。また、相談対応技術の訓練を受けた事務職員も訪問教員に同行し、全学の説明もできるようにして行く予定である。